

第2回都市計画審議会交通政策分科会(令和5年5月31日) 議事要旨

日 時	令和5年5月31日(水) 午後1時30分～午後3時30分
場 所	尼崎市役所議会棟3階 西会議室
出席委員	三古委員 西田委員 宮野委員 和田委員 奥野(雅)委員 奥野(裕)委員 野津委員 岡委員 梅山委員 松山委員 藤嶋委員 平之内委員 <u>中西委員</u> 平瀬委員 <u>志茂委員</u> <u>鎌田委員</u> (下線は新任委員)
傍聴者	0名
議 題	(1) (仮称) 尼崎市総合交通計画の構成等について (2) アンケート調査の実施について
配布資料	資料1 尼崎市都市計画審議会交通政策分科会委員名簿 資料2 (仮称) 尼崎市総合交通計画の構成等について 資料3 計画の基本的な考え方 資料4 アンケート調査の概要 資料5 部会での意見 参考資料A 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画(改定中) 参考資料B みどりの基本計画(改定中) 参考資料C 第6次総合計画

1 議題

1) 計画の構成等

- (仮称) 尼崎市総合交通計画の構成について、意見交換を行った。
 - ・ 市域の大部分は公共交通ネットワークで網羅できている中、拠点となる駅や施設、臨海部などをうまくつなぐこと、その公共交通ネットワークを維持すること、人を惹きつける魅力を高めていくことの3つが重要だと考えている。
 - ・ 生活圏を意識し、隣接する市域を含めた交通体系として考えていくべきである。
 - ・ 臨海部は産業集積ゾーンとしてだけでなく、魚釣り公園、尼崎の森中央緑地、尼ロックなどの資源を活かした観光面での交通施策が考えられるのではないかと。
 - ・ 国や県などの関連する計画と整合を図りながら、計画期間の10年間に対して具体的な目標指標を検討する必要がある。
 - ・ 臨海部には大規模な工場や運送会社、物流施設があり、荷待ちをするトラックが長時間停車して問題となっている。
 - ・ コロナによる事業環境の変化と同時にDXの推進が国を挙げて行われている。例えば路線バスの運行の効率化と利便性の向上のため、DXを駆使し取り組んでいくなど何か具体化していけるような方向性があれば良いと思う。

2) アンケート調査

- アンケート調査について、意見交換を行った。
 - ・ 地図を見て目的地の番号を選ぶというのがあるが、選択肢が多く答えづらい。
 - ・ 「外出に際して付き添いや介助が必要かお答えください」とあるが、今の選択肢では必要ないと思った人はどれを選ぶのか迷うのではないかと。
 - ・ 「自宅から鉄道駅まで手段」と書いてあるが、「乗車するまでの手段」というのは回答項目と照らし合えば、「鉄道駅までの手段」のほうがわかりやすいのではないかと。

いか。

- ストレス度合いの選択は、「低い（満足）」で数字は1となっている。一般的には満足度が高いと5、「やや低い」は4となる。回答と数字の大小が合っていないと感じる。
- 普段利用していない交通手段について、ストレス度合いを回答することは難しいのではないか。
- 利用料金に対するストレス度合いは有意義な回答が得られないのではないか。
- 路線バスを利用する機会がない理由を答える回答欄を作ってもらいたい。
- 事業所へのアンケート調査は、産業部局と連携した通勤の実態把握調査の要素も含んでいる。問いの設定については、再度産業部局と調整した上で実施したい。

2 その他

- 事務局より資料に基づき、スケジュール等を説明
- 近隣市を含めたまちづくりについて委員から意見があった。
 - 地域によっては尼崎市に住んでいるが西宮市のショッピングセンターに買い物に行くなど、生活する中で市を跨ぐ移動に鉄道を利用されている方も多いのではないか。まち同士の役割分担を意識したまちづくりをしていくべきではないか。

以 上